

ディプロマ・ポリシー ◎=学修成果の修得ために特に重要な科目 ○=学修成果の修得ために重要な科目	1.知識・理解 (1)現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門知識を体系的に理解することができる。	1.知識・理解 (2)人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。	2.汎用的・実践的的技能 (1)多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。	2.汎用的・実践的的技能 (1)コミュニケーション・スキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。	3.態度・志向性 (1)社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。	3.態度・志向性 (2)ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。	4.総合性・創造性 (1)個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。	4.総合性・創造性 (1)総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。
英語コミュニケーションIA					◎		○	○
英語コミュニケーションIB					◎		○	○
英語コミュニケーションIC					◎		○	○
英語コミュニケーションID					◎		○	○
英語コミュニケーションII 基礎プレゼンテーション					◎		○	○
英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション					◎		○	○
英語コミュニケーションII 基礎エッセーライティング					◎		○	○
英語コミュニケーションII 応用エッセーライティング					◎		○	○
情報処理概論				○				
情報リテラシー				○				
コンピュータリテラシー				○				
ビジネスリテラシー					○			
日本語表現法				○				
科学と人間					○			
基礎化学					○			
基礎生物学					○			
物理と自然法則					○			
地球の科学					○			
数学入門					○			
基礎統計学				○				
社会調査基礎論				○				
日本国憲法	○				○			
法学	○				○			
法学	○				○			
政治学						○		
経済学					○			
倫理学							○	
哲学							○	
文学								
基礎ジェンダー学	○		○					
心理学		○						
生活と社会福祉								
生活と社会福祉								
現代生活論	○							
環境と健康と安全		○						
自然災害と防災の科学		○						

リテラシー科目

教養基礎科目

ディプロマ・ポリシー ◎=学修成果の修得ために特に重要な科目 ○=学修成果の修得ために重要な科目		1. 知識・理解 (1)現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門知識を体系的に理解することができる。	1. 知識・理解 (2)人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。	2. 汎用的・実践的技能 (1)多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。	2. 汎用的・実践的技能 (1)コミュニケーション・スキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。	3. 態度・志向性 (1)社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。	3. 態度・志向性 (2)ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。	4. 総合性・創造性 (1)個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。	4. 総合性・創造性 (1)総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を实践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。
課題別教養科目	平和論					○			
	現代人権論						○		
	ジェンダーとキャリア	○		○					
	労働と人権								
	地域とグローバリゼーション					○			
	家族関係論		○						
	地域メディア論				○				
	異文化理解海外フィールドワーク								○
健康・スポーツ科目	健康スポーツ科学Ⅰ					○			
	健康スポーツ科学Ⅰ					○			
	健康スポーツ科学Ⅰ					○			
	健康スポーツ科学Ⅱ					○			
	健康スポーツ科学Ⅱ					○			
	健康スポーツ科学Ⅱ					○			
	健康スポーツ科学Ⅱ					○			
	健康スポーツ科学Ⅱ					○			
	健康スポーツ科学Ⅱ					○			
	対人関係とメンタルヘルス			○					
	健康とヘルスプロモーション			○					
	栄養と健康	○	○						
	栄養と健康	○	○						
域学共生科目	地域学概論	○	○						
	土佐の歴史と文化	○							
	土佐の経済とまちづくり	○							
	土佐の自然と暮らし	○							
	土佐の食と健康	○							
	専門職連携論								○
	チーム形成論								○
	地域学実習Ⅰ			○					
	地域学実習Ⅱ						○		
	域学共生実習						○		

ディプロマ・ポリシー ◎=学修成果の修得ために特に重要な科目 ○=学修成果の修得ために重要な科目		1.知識・理解 (1)現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門知識を体系的に理解することができる。	1.知識・理解 (2)人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。	2.汎用的・実践的技能 (1)多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。	2.汎用的・実践的技能 (2)コミュニケーション・スキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。	3.態度・志向性 (1)社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。	3.態度・志向性 (2)ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。	4.総合性・創造性 (1)個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。	4.総合性・創造性 (2)総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。
基本科目	福祉対象入門	◎	○						
	福祉援助入門	○	◎						
	社会福祉入門演習					◎			
	社会福祉基礎演習					○	◎		
	心理学理論と心理的支援		◎	○					
	社会理論と社会システム	◎	○						
	現代社会と福祉 I		◎	○				○	
	現代社会と福祉 II		○	◎				○	
	社会福祉史					○		○	◎
	介護技術				○	○			
社会福祉制度科目	社会保障論 I	◎	○	○					
	社会保障論 II	◎	○	○					
	公的扶助論		○	◎				○	
	障害者福祉論	○		○				◎	
	児童・家庭福祉論	○		○				◎	
	高齢者福祉論 I	○		○		◎			
	高齢者福祉論 II	○		○		◎			
	精神保健福祉論 I		○	◎				○	
	精神保健福祉論 II		○	◎				○	
	福祉行財政と福祉計画		○	◎		○			
	福祉サービスの組織と経営		◎	○					○
	権利擁護論	○					○		◎
	更生保護制度		○				○	◎	
	保健医療サービス	◎				○			
女性福祉論	○		◎					○	
医療福祉論	○				○			◎	
からだところの理解科目	人体の構造と機能及び疾病			◎					
	精神医学 I	○	◎						
	精神医学 II	○	◎						
	精神保健学 I	○	◎	○					
	精神保健学 II	○	◎	○					
	発達と老化の理解 I			◎					
	発達と老化の理解 II			◎					
	認知症の理解 I		◎	○				○	
	認知症の理解 II			○				◎	○
	障害の理解 I			○				◎	○
	障害の理解 II			○				◎	○
	こころとからだのしくみ I			◎					
こころとからだのしくみ II			◎						

ディプロマ・ポリシー ◎=学修成果の修得ために特に重要な科目 ○=学修成果の修得ために重要な科目		1.知識・理解 (1)現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門知識を体系的に理解することができる。	1.知識・理解 (2)人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。	2.汎用的・実践的技能 (1)多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。	2.汎用的・実践的技能 (2)コミュニケーション・スキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。	3.態度・志向性 (1)社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。	3.態度・志向性 (2)ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。	4.総合性・創造性 (1)個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。	4.総合性・創造性 (2)総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。
相談援助基礎科目	相談援助の基盤と専門職	◎	○				○		
	相談援助の理論と方法Ⅰ		◎	○					
	相談援助の理論と方法Ⅱ		◎	○					
	相談援助の理論と方法Ⅲ		○	◎	○				
	相談援助の理論と方法Ⅳ		○	◎	○				
	精神保健福祉援助技術総論	◎	○	○					
	精神保健福祉援助技術各論		◎	○	○				
	面接技法				◎	○	○		
	医療ソーシャルワーク論			○				○	◎
相談援助実践科目	相談援助演習Ⅰ				◎	○	○		
	相談援助演習Ⅱ			○	◎				
	相談援助演習Ⅲ				◎			○	
	相談援助演習Ⅳ			○				○	◎
	相談援助実習指導Ⅰ	○				◎			
	相談援助実習指導Ⅱ			◎			○		
	相談援助実習指導Ⅲ		○	○			◎		
	相談援助実習				○		◎		○
	事例研究法			○	○				◎
	実践記録法		○	◎					
地域・国際福祉科目	地域福祉論Ⅰ	◎	○						
	地域福祉論Ⅱ	○	◎						
	地域福祉活動			○	◎	○			
	国際福祉論		○	◎	○				
	コミュニティソーシャルワーク						○	○	◎
	福祉NPO論		○		◎	○			
	子育て支援論		○	◎		○			
	虐待防止論		○		◎	○			
社会復帰支援科目	ケアマネジメント論		○	◎					
	ケアマネジメント演習				◎	○			
	ケアプラン策定法						○	◎	
	就労支援サービス		◎	○		○			
	精神科リハビリテーション学		○	○	◎				
精神保健福祉実践科目	精神保健福祉援助演習			○	◎	○			
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ		◎		○	○			
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ				◎	○			○
	精神保健福祉援助実習Ⅰ			○				○	◎
	精神保健福祉援助実習Ⅱ			○				○	◎

